

ブタの日本脳炎HI抗体保有状況調査 －2009年速報第1報－

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスに感染したヒトのうち数百人に一人が発症すると考えられている重篤な脳炎である¹⁾。ヒトへの感染は日本脳炎ウイルスを媒介する蚊（日本では主にコガタアカイエカ）が日本脳炎ウイルスに感染したブタを吸血し、その後ヒトを刺すことにより発生する。

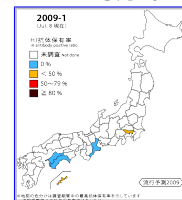
感染症流行予測調査事業では、全国各地のブタ血清中の日本脳炎ウイルスに対する抗体を赤血球凝集抑制法（HI法）を用いて測定することにより、間接的に日本脳炎ウイルスの蔓延状況および活動状況を調査している。前年の秋以降に生まれたブタが日本脳炎ウイルスに対する抗体を保有し、さらに2-メルカプトエタノール（2-ME）感受性抗体（IgM抗体）を保有している場合、そのブタは最近日本脳炎ウイルスに感染したと考えられる。

1960年代までは、毎年夏から秋にかけて多数の日本脳炎患者が発生しており^{2), 3)}、ブタの抗体保有状況から日本脳炎ウイルスが蔓延している地域に多くの患者発生がみられた。Konnoらは、当時調査したブタの半数以上が日本脳炎ウイルスに感染していると、約2週間後からその地域に日本脳炎患者が発生してくると報告している⁴⁾。現在では、日本脳炎ワクチン接種の普及や生活環境の変化等により、ブタの感染状況と患者発生は必ずしも一致していない。近年における日本脳炎患者報告数は毎年数名程度であるが、ブタの抗体保有状況から日本脳炎ウイルスが蔓延あるいは活動していると推測される地域では、ヒトへの感染の危険性が高くなっていると考えられる。

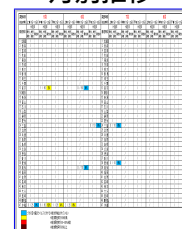
本速報は、日本脳炎ウイルスの感染に対する注意を喚起するものである。また、それぞれの居住地域における日本脳炎に関する情報にも注意し、日本脳炎ウイルスが蔓延あるいは活動していると推測される地域においては、予防接種を受けていない人、乳幼児、高齢者は蚊に刺されないようにするなど注意が必要である。なお、日本脳炎に関するQ&Aについては以下のサイトから閲覧可能である。

[<https://www.niid.go.jp/niid/ja/jeqa.html>]

抗体保有状況の 地理的分布



抗体保有状況の 月別推移



2009-1 (2009年7月8日現在)						
HI抗体	2-ME感受性抗体	都道府県	採血月日	HI抗体陽性率*	2-ME感受性抗体陽性率**	コメント
◎ 4/20	◎ 5/11	沖縄県	6月1日	8% (2/25)		今回の調査ではHI抗体陽性のブタはすべて抗体価1:40未満であった。 前回の調査（5月25日採血）では4%（1/25）のブタがHI抗体陽性であったが、そのブタは抗体価1:40未満であった。 前々回の調査（5月18日採血）ではHI抗体陽性のブタは認められなかった。
		高知県	6月17日	0% (0/10)		
		愛媛県	7月1日	0% (0/10)		
		三重県	7月6日	0% (0/10)		前回の調査（6月29日採血）でもHI抗体陽性のブタは認められなかった。
◎ 4/13		東京都	6月15日	0% (0/50)		今回の調査ではHI抗体陽性のブタは認められなかった。 前回の調査（5月11日採血）では2%（1/50）のブタがHI抗体陽性であり、そのブタは抗体価1:40以上を示したが、2-ME感受性抗体は検出されなかった。 前々回の調査（4月13日採血）では4%（2/50）のブタがHI抗体陽性であり、それらのブタはすべて抗体価1:40以上を示したが、2-ME感受性抗体は検出されなかった。
■ 今シーズンの調査期間中に調査したブタのHI抗体陽性率が80%を超えた地域						
■ 今シーズンの調査期間中に調査したブタのHI抗体陽性率が50%を超え、かつ2-ME感受性抗体が検出された地域						
■ 今シーズンの調査期間中に調査したブタから2-ME感受性抗体が検出された地域						
◎ 今シーズンの調査期間中に調査したブタにおいてHI抗体陽性あるいは2-ME感受性抗体が検出されたことを示す日付は今シーズンで初めてHI抗体陽性あるいは2-ME感受性抗体が検出された採血月日を示す						
* HI抗体は、抗体価1:10以上を陽性と判定した。						
** 2-ME感受性抗体は、抗体価1:40以上（北海道・東北地方は1:10以上）であった検体について検査を行い、2-ME処理を行った血清の抗体価が未処理の血清（対照）と比較して、3管（8倍）以上低かった場合を陽性、2管（4倍）低かった場合を疑陽性、不変または1管（2倍）低かった場合を陰性と判定した。 なお、対照の抗体価が1:40（北海道・東北地方は1:10あるいは1:20も含む）で、2-ME処理後に1:10未満となった場合も陽性と判定した。						

- 文献 1. Southam, C. M., Serological studies of encephalitis in Japan. II. Inapparent infection by Japanese B encephalitis virus. Journal of Infectious diseases. 1956. 99: 163-169.
2. 松永泰子, 矢部貞雄, 谷口清州, 中山幹男, 倉根一郎. 日本における近年の日本脳炎患者発生状況－厚生省伝染病流行

- 予測調査および日本脳炎確認患者個人票（1982～1996）に基づく解析－. 感染症学雑誌. 1999. 73; 97-103.
3. 新井 智, 多屋馨子, 岡部信彦, 高崎智彦, 倉根一郎. わが国における日本脳炎の疫学と今後の対策について. 臨床とウイルス. 2004. 32(1): 13-22.
 4. Konno, J., Endo, K., Agatsuma, H. and Ishida, Nakao. Cyclic outbreaks of Japanese encephalitis among pigs and humans. American Journal of epidemiology. 1966. 84: 292-300.